

## 研究報告

# 災害時の看護師の役割に関する学生の学び

## —ボランティアおよび観察者のレポート分析から—

An examination of student learning about the role of nurses in times of disaster  
based on an analysis of volunteer and observer reports

森嶋道子<sup>1)</sup> Michiko Morishima, 佐久間夕美子<sup>2)</sup> Yumiko Otsuka-Sakuma,  
中山由美<sup>2)</sup> Yumi Nakayama, 竹中 泉<sup>3)</sup> Izumi Takenaka

**要 旨** 本研究は、学生メディカルラーにボランティア、観察者として参加した看護学生が学んだ災害時の看護師の役割を明らかにすることを目的とした。研究協力に同意の得られたボランティア23名、観察者46名の参加後のレポートを質的帰納的に分析した。災害時の看護師の役割として、ボランティアでは〈安全を確保する〉〈災害現場の情報を収集する〉〈救護者間で情報を共有する〉〈多職種と連携する〉〈救護活動を実施する〉〈要救護者や家族の精神的ケアを行う〉〈要救護者や家族の心身のケアを行う〉という7カテゴリーが、観察者では〈安全を確保する〉〈災害現場の情報を収集する〉〈救護者間で情報を共有し、連携する〉〈災害現場で適切に状況判断し、看護を実践する〉〈救命処置を実践する〉〈精神的ケアを行う〉という6カテゴリーが抽出された。ボランティアは救護活動の実施について、観察者は精神的ケアについて多く記述していた。

**キーワード** 学生メディカルラー、災害看護、看護学生、看護師の役割

## I. 緒言

2009年の看護基礎教育カリキュラムの改正において、災害直後から支援できる基礎的知識の理解をねらいとして災害時の看護が加えられた。災害看護教育においては、活動に必要な判断力や基本的救護技術等の習得と、被災現象や被災者の理解が求められる。これらの学習方法として、シミュレーションなどの演習は欠かせないと言われており（小原, 2012）、地震による災害を想定した救護活動演習（横田, 2012）や、病院で行われる災害訓練に参加する演習（山田, 2012）、机上でのシミュレーション演習（長家, 2012）といった、学生がより臨場感を持つことのできる教育の工夫がなされている。その教育効果については、先行研究（百武他, 2008；山田, 2012；

松浦他, 2014）で明らかにされているが、プログラムや教材化、意味づけできる振り返り等においては課題があることも報告されている（横田, 2012）。近年、大規模災害はいつ発生してもおかしくないと言われており、災害看護教育の充実は喫緊の課題である。

A大学では、看護学部4年生を対象に選択科目として災害看護論を開講している。この授業では「災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護の役割やトリアージ法、救命救急時の看護や一次、二次救命処置などについて学ぶ」ことを目的としている。看護職は災害発生直後から中長期的に広い範囲で活動し、状況に応じたさまざまな役割を担う（小原, 2008）。看護基礎教育にはその役割を遂行できる能力の育成が求められるが、その基盤には看護職が果たすべき役割の理解

1) 天理医療大学医療学部看護学科 Faculty of Health Care, Tenri Health Care University

2) 摂南大学看護学部看護学科 Faculty of Nursing, Setsunan University

3) 大阪信愛学院短期大学看護学科 Faculty of Nursing, Osaka Shinai College

が必須である。講義においては、災害急性期の看護活動の理解を促すために、阪神・淡路大震災や東日本大震災の状況がわかる視聴覚教材などを用いているが、被災体験や被災地でのボランティア活動経験のある学生は少なく、看護職が災害現場においてどのような活動を行っているのかなど、看護師の役割を具体的にイメージすることには限界がある。

今回、授業の一環として、B病院救命救急センターが主催する学生メディカルラリー（以下、ラリー）に、看護師役のプレイヤー、模擬患者役やその家族の役、タイムキーパー、災害救護想定場面の再現・復帰等の運営を補助する役割を担うボランティア、ラリー進行状況を見学する観察者として参加する機会を得た。ラリーは、災害現場や医療者らの活動を身近に体験できる機会であり、災害時の看護師の役割の理解を助けるためにも有効であると考えられる。災害救護訓練にプレイヤーとして参加した学生が捉えた看護師の役割についての報告（今枝他, 2004；中山他, 2018）はあるが、ボランティアや観察者といった言わばサポータープレイヤーが捉えた看護師の役割に着目した研究は少ない。このことから、本研究ではボランティアおよび観察者がラリー参加を通して捉えた災害時の看護師の役割を明らかにすること、また、その類似点、相違点を明らかにすることを通して、今後の災害看護教育の方法を検討したいと考えた。

本研究では、ラリーにボランティアおよび観察者として参加した学生が捉えた災害時の看護師の役割と、ボランティアと観察者が捉えた災害時の看護師の役割の類似点、相違点を明らかにすることを目的とする。

## Ⅱ. 方法

### 1. ラリー概要

ラリーとは、医学および看護、救急救命を専攻する学生たちが5～6名のチームを組み、開催地である公園内に設定された複数の急性期災害救護想定場面において、制限時間内に単数もしくは複数の模擬

患者の診断と治療・看護および、模擬患者の家族や救護場面に居合わせた人々への対応などを行う採点競技である。各チームは複数の想定を同条件において経験し、各場面での活動終了後には詳細なフィードバックがチームに対して行われる。また、全競技終了後には、参加者全員を対象に採点結果・順位の発表が行われる。学生はこのラリーにプレイヤー、またはボランティア、観察者として参加した。プレイヤーは、看護師役として医師役の医学生、救急救命を専攻する学生とともに救護活動を行う。ボランティアは、模擬患者役やその家族の役、タイムキーパー、災害救護想定場面の再現・復帰等の運営を補助する役割を担う。観察者は、ラリー進行状況を自由に見学することができる。今回実施された災害救護想定場面の一部概要は以下のとおりである。

- 1) 救急車の運転手が意識消失し、交通事故を起こした。意識障害のある運転手および骨盤骨折の被害者を救護する。
- 2) 外出先で親子が心肺停止になった。親子の救護とともに、家族や見物者への対応をする。
- 3) トンネル内で複数台が絡む交通事故が発生した。トリアージ実施中に車の爆発が起き、二次災害が生じる。

### 2. 研究デザイン

ラリー終了後の課題レポートを分析した質的帰納的研究である。

### 3. 分析対象

A大学看護学部の2016年度災害看護論を履修した4年生97名が、プレイヤー（20名）、ボランティア（25名）、観察者（52名）に分かれてラリーに参加した。ラリー参加学生は、A大学のe-Learningプラットフォームに、「災害時の看護師の役割として考えられること」というテーマで、1,000字程度の課題レポートを個々で作成し提出した。当該年度はラリー開催時期の関係上、授業開始当初にラリーに参加している。ラリー参加に関するフィードバックについては、レポートの作成後に授業内で行われた。

本研究では、ラリーにおいて救護活動を行ったプレイヤーではなく、サポータープレイヤー（ボ

ランティアおよび観察者)として参加した学生の学びに焦点をあてる目的で、ラリー参加者のうち、研究協力の同意が得られたボランティアとして参加した23名、観察者として参加した46名の課題レポートを分析対象とした。

#### 4. データ分析期間

分析は2017年2月～8月に実施した。

#### 5. 分析方法

学生が記述した看護師の役割に関する文章を精読し、一文の意味を損なわないようにコード化した。抽出したコードの意味内容が類似したものを集め、共通した意味を表わすようにサブカテゴリー化した。さらに、サブカテゴリーの類似性や相違性に着目し

ながら分類・整理、要約をしてカテゴリー化した。コード化、サブカテゴリー化、カテゴリー化の各段階においては、研究者間で確認と修正を繰り返し行い、内容の信頼性および妥当性の確保に努めた。その後、ボランティアおよび観察者の捉えた災害時の看護師の役割の類似性や相違性を研究者間で検討した。

#### 6. 倫理的配慮

本研究は、A大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:2016-059)。対象者には、科目履修および成績処理がすべて終了した段階で研究協力の依頼をした。研究協力は学習活動や成績には一切の影響がないこと、自由意志での協力であり、参加拒否や途中辞退をした場合にも一切の不利益が

表1 ボランティアが捉えた看護師の役割

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数
安全を確保する	自分の安全を確保する	自分自身の身を守る	20
	医療者の安全を確保する	スタッフの安全を確保する	
	要救護者の安全を確保する	傷病者の安全を確保する	
	現場の安全を確保する	現場の安全を守る	
	二次災害予防の安全管理を行う	二次災害を予防するために安全管理を行う	
災害現場の情報を収集する	発見者から情報収集する	通報者から情報を収集する	9
	要救護者から情報収集する	傷病者から事故前の情報を収集する	
救護者間で情報を共有する	他の救護者と情報を共有する	医師や救命救急士と情報を共有する	14
	チーム内で情報を共有する	チームで情報を共有しながら行動する	
	他の救護者に情報を伝達する	医師、救急隊に情報を伝達する	
	リーダーに情報を伝達する	状況をリーダーに伝える	
多職種と連携する	多職種に協力を要請する	他の職種にも協力要請の声かけを行う	7
	多職種と連携しながら救護する	多職種の架け橋的存在となる 他職種の役割を理解した上で連携し行動する	
救護活動を実施する	的確な判断を下しながら看護を行う	冷静かつ迅速な判断や対応をする	40
	医師の診療の補助を行う	医師の指示のもと迅速に診療の補助を行う	
	トリアージを行う	トリアージを行い適切な治療を提供する	
	先を予測して看護を行う	先を見据えて行動する あらゆる事態を想定して行動する	
	医療処置を的確に行う	指示にしたがってすばやく的確な処置を行う	
	要救護者の観察と処置を行う	傷病者の全身状態の観察と処置を行う	
	処置が円滑に進むよう準備を行う	限りある資源を活用し看護活動をする 処置がすぐ行えるよう準備をする	
	要救護者や家族の精神的ケアを行う	要救護者の不安を軽減する関わりをする	
要救護者の話を傾聴する		怯えている傷病者の話を傾聴する	
家族の不安を軽減する関わりをする		家族を安心させて落ち着かせる	
家族に配慮する		家族が落ち着いて話ができる環境を提供する	
要救護者や家族の心身のケアを行う	家族に現状や今後の経過を説明する	患者家族に理解しやすい説明をする	5
	要救護者の心身のケアを行う	傷病者の身体的、心理的援助を行う	
	家族や身近な人のケアを行う	家族等の体調を観察する	

生じないことを口頭と文書で説明した。研究協力承諾書は、研究者の強制力が働かないようA大学内に設置された鍵のかかるレポートボックスに、説明後2週間以内に提出してもらうよう依頼した。

### Ⅲ. 結果

ボランティアが記述した災害時の看護師の役割について分析した結果、113のコードから27のサブカ

テゴリが抽出され、7つのカテゴリーに分類された(表1)。観察者が記述した災害時の看護師の役割について分析した結果、203のコードから28のサブカテゴリーが抽出され、6つのカテゴリーに分類された(表2)。以下、カテゴリーを〈 〉、サブカテゴリーを【 】で記載する。

#### 1. ボランティアの捉えた災害時の看護師の役割

〈安全を確保する〉には20のコードがあり、自分自身の身を守る【自分の安全を確保する】、救護する

表2 観察者が捉えた看護師の役割

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数
安全を確保する	救護者自身の安全を確保する	医療者自身の安全を確保する必要がある	22
	傷病者の安全を確保する	避難ルートや安全な場所を確認し、患者や被災者を誘導する	
	災害現場に居合わせた人々の安全を確保する	その場は安全であるか、安全に対応ができるかなどを判断し、確認する	
	二次災害を想定して対応する	二次災害を想定した素早い行動	
災害現場の情報を収集する	災害現場で発見者から情報収集を行う	現場で発見者から要救護者の情報収集を行う	21
	傷病者の持ち物から情報収集を行う	負傷者の持ち物から必要な情報収集を行う	
	傷病者の情報をアセスメントする	傷病者の状態を観察し、アセスメントする	
救護者間で情報を共有し、連携する	他職種と傷病者の情報を共有する	様々な職種と連携し、傷病者の情報共有を行って処置を行う	37
	チーム内で情報を共有する	患者の状態を判断するために、チームで情報共有をする	
	医師に伝達・報告する	傷病者の状態を観察し、医師に的確に報告する	
	救急隊に情報を提供する	情報を収集し、救命士との架け橋となる 救急隊に情報を伝える	
	チーム医療を提供する	医療チームが円滑に機能するように調整する 潤滑剤の役割を担う	
災害現場で適切に状況判断し、看護を実践する	他職種と連携する	医師や救命士、医療従事者に報告・連絡・相談を行う	26
	冷静に状況を判断し、対応する	冷静に状況を把握して判断し、対応する	
	看護師が自立して行動する	医師の指示がない場合であっても、自立した積極的な行動を行う	
救命処置を実践する	適切に医師の処置の介助を行う	安全の確保と感染に注意しながら医師の指示により処置を行う	45
	トリアージを行う	傷病者のトリアージを行う	
	優先順位を判断し、救命処置を行う	意識レベルから優先順位を判断し迅速に処置を行う	
	一次救命処置を行う	気道確保と全身状態を観察する	
	救命処置ができる環境を整備する	安全に救急処置ができるよう環境整備する	
精神的ケアを行う	周囲に協力を要請する	AEDや救急要請など周囲に協力を要請し、現在の状況を伝える	52
	限られた物資で対応する	物品がなくても臨機応変に対応する	
	傷病者の精神的ケアを行う	受傷者の話を傾聴・受容して、不安などを軽減させる	
	家族の精神的ケアを行う	家族の不安を軽減するような声かけや関わりをする	
	傷病者と家族の精神的ケアを行う	混乱している傷病者やその家族の不安を軽減する	
	傷病者や家族、周囲の人々の精神的ケアを行う	現在の状況を説明し、家族や周囲の人々のメンタルケアを行う	
	傷病者や家族、周囲の人々の混乱を最小限にする	近くに居合わせた人々の混乱を最小限にする	
看護師自身のセルフケアを行う	自己のメンタルケアが行える		

スタッフの安全を確保する【医療者の安全を確保する】、被災している傷病者の安全を確保する【要救護者の安全を確保する】、災害現場の安全を確保する【現場の安全を確保する】、【二次災害予防の安全管理を行う】の5つのサブカテゴリーで構成された。

〈災害現場の情報を収集する〉には9のコードがあり、災害を目撃した家族や通報者らから情報収集する【発見者から情報収集する】、被災者本人から情報収集する【要救護者から情報収集する】の2つのサブカテゴリーで構成された。

〈救護者間で情報を共有する〉には14のコードがあり、医師や救命救急士らと情報を共有する【他の救護者と情報を共有する】、チーム全体で状況を把握する【チーム内で情報を共有する】、医師や救急隊などに情報を伝達する【他の救護者に情報を伝達する】、傷病者の状況をチームリーダーに情報伝達する【リーダーに情報を伝達する】の4つのサブカテゴリーで構成された。

〈多職種と連携する〉には7のコードがあり、現場にいる救急隊や警察官にも声をかけて協力をあおぐ【多職種に協力を要請する】、他の医療従事者らと連携し援助をする【多職種と連携しながら救護する】の2つのサブカテゴリーで構成された。

〈救護活動を実施する〉には40のコードがあり、冷静で迅速に判断し対応する【的確な判断を下しながら看護を行う】、医師の指示のもと迅速に診療の補助を行う【医師の診療の補助を行う】、適切な治療を提供するために【トリアージを行う】、あらゆる事態を想定して行動する【先を予測して看護を行う】、指示に従いすばやく的確な処置を行う【医療処置を的確に行う】、傷病者の全身状態の観察と処置を行う【要救護者の観察と処置を行う】、迅速に処置できるよう準備をする【処置が円滑に進むよう準備を行う】の7つのサブカテゴリーで構成された。

〈要救護者や家族の精神的ケアを行う〉には18のコードがあり、傷病者への声かけにより【要救護者の不安を軽減する関わりをする】、怯えている傷病者の話を傾聴する【要救護者の話を傾聴する】、家族が安心できる声かけを行う【家族の不安を軽減

する関わりをする】、家族が落ち着いて話しができる環境を提供するなどの【家族に配慮する】、家族に病状説明や経過を報告する【家族に現状や今後の経過を説明する】の5つのサブカテゴリーで構成された。

〈要救護者や家族の心身のケアを行う〉には5のコードがあり、傷病者の身体面や精神面への支援を行う【要救護者の心身のケアを行う】、家族らの体調を観察するなどの【家族や身近な人へのケアを行う】の2つのサブカテゴリーで構成された。

## 2. 観察者の捉えた災害時の看護師の役割

〈安全を確保する〉には22のコードがあり、医療者自身の安全確保の必要性から【救護者自身の安全を確保する】、避難ルートに傷病者らを誘導する【傷病者の安全を確保する】、現場の安全を判断する【災害現場に居合わせた人々の安全を確保する】、二次災害を想定して素早く行動する【二次災害を想定して対応する】の4つのサブカテゴリーで構成された。

〈災害現場の情報を収集する〉には21のコードがあり、災害現場で情報を収集する【災害現場で発見者から情報収集を行う】、所持品から情報を得る【傷病者の持ち物から必要な情報収集を行う】、状態を観察してアセスメントする【傷病者の情報をアセスメントする】の3つのサブカテゴリーで構成された。

〈救護者間で情報を共有し、連携する〉には37のコードがあり、医療者のみならず警察等様々な職種と連携して情報共有する【他職種と傷病者の情報を共有する】、傷病者の状態を判断するために医師の学生、看護学生、救命救急士の学生で構成されている【チーム内で情報を共有する】、傷病者を観察して的確に医師に伝える【医師に伝達・報告する】、情報を収集し、伝達して救命士との架け橋となり、救急隊に情報を伝える【救急隊に情報を提供する】、医療チームが円滑に機能するよう調整し、潤滑剤の役割を担う【チーム医療を提供する】、医師や救命士、医療従事者に報告・連絡・相談を行う【他職種と連携する】の6つのサブカテゴリーで構成された。

〈災害現場で適切に状況判断し、看護を実践する〉には26のコードがあり、状況判断と対応に冷静さを求める【冷静に状況を判断し、対応する】、医師の

指示がない場合にも自立的に活動をする【看護師が自立して行動する】の2つのサブカテゴリーで構成された。

〈救命処置を実践する〉には45のコードがあり、安全と感染に留意して医師の指示で処置を行う【適切に医師の処置の介助を行う】、傷病者の【トリアージを行う】、意識レベルから優先順位を判断し迅速に処置を行う【優先順位を判断し、救命処置を行う】、気道確保と全身状態を観察する【一次救命処置を行う】、安全に救急処置ができるように【救命処置ができる環境を整備する】、状況を伝え、AEDや救急要請など【周囲に協力を要請する】、物品がなくても臨機応変に対応する【限られた物資で対応する】の7つのサブカテゴリーで構成された。

〈精神的ケアを行う〉には52のコードがあり、受傷者の話を傾聴・受容し、不安等を軽減させる【傷病者の精神的ケアを行う】、家族の不安をケアする【家族の精神的ケアを行う】、混乱する傷病者や家族の不安に対応する【傷病者と家族の精神的ケアを行う】、状況を説明して家族や周囲の人々のメンタルケアを行う【傷病者や家族、周囲の人々の精神的ケアを行う】、居合わせた人々に対して【傷病者や家族、周囲の人々の混乱を最小限にする】、自己のメンタルケアも含めた【看護師自身のセルフケアを行う】の6つのサブカテゴリーで構成された。

### 3. ボランティアと観察者が捉えた災害時の看護師の役割の比較

ボランティア、観察者の両者が共通して、安全の確保、情報収集、情報共有、連携、救護活動の実践、精神的なケアを災害時の看護師の役割であると捉えていた。

ボランティアでは、救護活動の実施に関する内容を最も多く記述し、観察者では、精神的ケアについて最も多く記述していた。

## IV. 考察

### 1. ボランティアと観察者が捉えた災害時の看護師の役割

このラリー参加を通して、サポーターングプレイヤーであるボランティア、観察者は、両者に共通して安全を確保し多職種と連携して救護に取り組むこと、要救護者と家族に身体的・精神的ケアを提供することを災害時の看護師の役割であると捉えていた。長沼他(2017)は、災害の急性期において看護師は、独自の専門性を含めた多様なケアを展開しつつ他職種連携・協働の調整的役割を担うと述べている。ボランティアおよび観察者としてラリーに参加した学生のレポート分析結果から、このラリー参加は、災害時の看護師の役割を理解するという本授業の目的を達成する一助となったと考える。

ボランティアでは、〈救護活動を実施する〉のカテゴリーのコード数が最も多く、ボランティアが特に着目した看護師の役割であったと考える。救護に不慣れな医師役、看護師役、救命救急士役の学生によって展開される救護場面を間近で見て、被災者の救出・救命には、先を予測し、的確に観察・処置を進めなくてはならないということが印象に残ったのではないかと考える。いかに不確かで混乱した災害現場であっても、安全で確実な医療・看護を提供することが看護師に求められていると認識したと考える。

観察者では〈精神的ケアを行う〉のカテゴリーのコード数が最も多く、観察者が特に着目した看護師の役割であったと考える。傷病者や家族、周囲の人々の混乱による精神面への影響を危惧し、混乱を鎮める役割の重要性を認識したものであると考える。

観察者は、〈安全を確保する〉において、医療者自身や傷病者、現場だけでなく、周囲に居合わせた人々の安全を確保することについても言及していた。ボランティアにおいては、周囲の人々について述べたコードは確認できず、観察者が災害現場を広く観察していたことがわかる。三宅他(2016)は、模擬患者参加型演習での実施者と観察者の学びの比較において、実施者は自己洞察の学びが多かったのに対し、観察者は看護師・患者関係を客観的に観察し、二者の関係を学んでいたことを報告している。本研究の結果においても、観察者は客観的に、そして俯

瞰的に状況を観察している様子うかがえた。さらに観察者は、情報源として傷病者の持ち物にも着目していた。ボランティアにおいては、持ち物について述べられたコードは確認できなかった。観察者はラリー展開現場から一定の距離をとって観察しているにも関わらず、詳細な点にも注目し、それが有効な情報源のひとつであると捉えている。観察者という客観的な立場であったことが、俯瞰的な観察と焦点化した観察の両方を可能にしたのではないかと考える。

## 2. 今後の災害看護教育の検討

災害看護教育においては、臨場感ある生きたシミュレーション教育の有効性が報告されている（山田, 2012）。また、「経験型」の学習の有効性も報告されている（松浦他, 2014；百武他, 2008）。今回のボランティアは、タイムキーパーや災害救護場面の運営補助にも多くの学生が配置されていた。ラリーの参加形態としては、救護者や模擬患者、その家族役などのように直接的ではなく、どちらかといえば間接的であった。しかし、抽出されたカテゴリーを見ると、救護者や模擬患者として参加した学生の学び（今枝他, 2004；成田, 2009；飛永他, 2004）と近い学びを得ることができているのではないかと考える。またそれは、第三者として観察に徹した観察者においても同様であると考えられる。間接的ともいえるラリーへの参加であっても、また、観察するのみの参加であっても、緊張感ある現場に「ともに在る」ことに意味があったのではないかと推察する。

中山他（2018）は、救護訓練に看護師役として参加した学生が、現場の安全確保や、救護活動の円滑な実施、情報収集・共有、精神的援助などとともに「全体把握をし、状況判断ができる」ことを災害時の看護師の役割であると捉えていたことを報告しているが、今回のボランティアおよび観察者が全体把握について記述していた部分は多くなかった。災害時の看護師の役割をより理解するためには、ラリーにおいて、ボランティア、観察者、看護師いずれの立場も体験できることが望ましいと考える。しかし、現状においては様々な制約があり困難である。した

がって、ラリー後にそれぞれの体験を共有できる機会を設けることで、災害時の看護師の役割をより広く具体的に捉えることが可能になるのではないかと考える。

## 3. 本研究の限界と今後の課題

本研究は、限られた人数の単発のレポート分析であることから、一般化には限界がある。今後は、さらにデータを蓄積すること、ラリー後の体験共有の効果について検討することが課題である。

## V. 結論

1. ボランティアのレポート分析より、〈安全を確保する〉〈災害現場の情報を収集する〉〈救護者間で情報を共有する〉〈多職種と連携する〉〈救護活動を実施する〉〈要救護者や家族の精神的ケアを行う〉〈要救護者や家族の心身のケアを行う〉という7つの看護師の役割のカテゴリーが明らかになった。
2. 観察者のレポート分析より、〈安全を確保する〉〈災害現場の情報を収集する〉〈救護者間で情報を共有し、連携する〉〈災害現場で適切に状況判断し、看護を実践する〉〈救命処置を実践する〉〈精神的ケアを行う〉という6つの看護師の役割のカテゴリーが明らかになった。
3. ボランティアは、救護活動の円滑な実施について多く記述し、観察者は、精神的ケアについて多く記述していた。
4. ラリー参加後に、それぞれの体験を共有することで、災害時の看護師の役割をより広く具体的に捉えられる可能性があることが示唆された。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、学生メディカルラリーを企画・主催した医療機関およびスタッフの皆様、調査にご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

本研究に関して開示すべき利益相反はありません。

## 引用文献

- 百武勇, 本多祥子, 鈴岡克文 (2008). 学生のメデイカルラリー参加から災害看護教育を考える 災害現場を疑似体験して. 看護教育, 49 (12), 1116-1120.
- 今枝博美, 目秦賢子, 西谷千恵, 飛永眞由美 (2004). 地震を想定した大規模防災訓練に救護者役として参加した看護学生の体験. 第35回日本看護学会論文集-看護教育-, 30-32.
- 松浦江美, 平松美紀, 阿部千賀子, 江藤千晴, 高山隼人, 石橋カズヨ (2014). 災害看護実習にエマルゴトレーニングシステム・集団災害訓練を導入した学習成果. 活水論文集 看護学部編, 2, 33-40.
- 三宅由希子, 青井聡美, 池田ひろみ (2016). 模擬患者参加型演習における効果的な演習形態の検討. 日本看護研究学会雑誌, 39 (3), 229.
- 長家智子 (2012). 災害時救助・救護活動のための机上シミュレーション. 看護教育, 53 (3), 180-185.
- 長沼幸司, 福田友秀, 武島玲子 (2017). 災害急性期の看護の役割を焦点とした災害看護教育の方向性に関する文献検討. Japanese Journal of Disaster Medicine, 22 (1), 1-8.
- 中山由美, 森嶋道子, 竹中泉, 佐久間夕美子 (2018). 救護訓練を通して看護学生が捉えた災害時の看護師の役割. 摂南大学看護学紀要, 6 (1), 31-41.
- 成田広美 (2009). 災害救護訓練に参加した学生の学びと「災害看護」の学習内容. 愛知県立総合看護専門学校紀要, 7, 10-15.
- 小原真理子 (2008). 新カリキュラムを追って 災害看護教育プログラムの事例. 看護教育, 49 (3), 239-244.
- 小原真理子 (2012). 災害看護教育の現状と方法-授業プログラムの具体例-. 勝見敦, 小原真理子, 災害救護-災害サイクルから考える看護実践-, 117-122, ニューヴェルヒロカワ, 東京.
- 飛永眞由美, 西谷千恵, 今枝博美, 目秦賢子 (2004). 地震を想定した大規模防災訓練に負傷者役として参加した看護学生の体験. 第35回日本看護学会論文集-看護教育-, 27-29.
- 山田百合子 (2012). 災害看護教育におけるシミュレーションの役割. 看護教育, 53 (3), 168-173.
- 横田栄子 (2012). 災害シミュレーション演習 赤十字看護専門学校の取り組み. 看護教育, 53 (3), 174-179.